浜松医科大学医学部附属病院 広報誌

はんだ山の風

2024 AUTUMN
第56号

2024年 初期研修医

卒後教育センター
一人ひとりの夢に寄り添う、オーダーメイドの研修で日々研鑽しています。

Contents

P.2 新任教授の紹介 眼科学講座 教授 兼子 裕規
P.3 新任教授の紹介 泌尿器科学講座 教授 稲元 輝生
P.4 新任教授の紹介 救急災害医学講座 教授 渥美 生弘
P.5 シリーズ最新医療 vol.42『「難治症例とIBDセンター」について』 炎症性腸疾患(IBD)センター センター長 教授 杉本 健
P.6 病気ここが知りたい『漢方専門外来の紹介』 漢方専門外来(麻酔科蘇生科内) 産科婦人科 中山 毅 麻酔科蘇生科 木村 哲朗
P.7 病気ここが知りたい『胎児診断外来開設のご報告 ～ 確かな胎児診断に基づく家族支援の実践』 産科婦人科 助教 新谷 光央
P.8 めまいに負けない体作りをしよう～自分でできるリハビリの紹介 耳鼻咽喉科･頭頸部外科 教授 三澤 清
P.10 安心と信頼を纏(まと)って 医療福祉支援センター
P.11 クラウドファンディング『ウイルス性肝炎啓発イベント開催のお礼』 肝疾患連携相談室 室長 肝臓内科 准教授 川田 一仁
P.12 はんだ山 トピックス 2024 8/1(木) サマーイベント～沖縄エイサーと縁日
P.12 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第42・43・44回) 医療福祉支援センター地域連携室

当院は日本医療機能評価機構認定病院です。
(一般病院3)

病院紹介動画は▶こちらから

新任教授のごあいさつ

眼科学講座　教授　兼子 裕規

みなさま、はじめまして。令和６年(2024年)７月１日付で眼科学講座の教授を拝命いたしました兼子裕規(かねこひろき)です。

私は平成14年(2002年)に名古屋大学医学部を卒業し、西尾市民病院(愛知県)で初期研修(２年間のスーパーローテーション)を行いました。平成16年(2004年)に名古屋大学医学部眼科学講座に入局すると同時に、名古屋大学大学院医学系研究科に入学いたしました。医師として昼夜臨床に研鑽し網膜硝子体手術を学問として学ぶ機会を得るとともに、大学院生として基礎研究を行う日々を過ごしました。大学院卒業とともに、米国ケンタッキー大学眼科のリサーチフェローとして研究留学する機会を得ました。ケンタッキー大学眼科では加齢黄斑変性という難治性網膜疾患に関する研究を行い、幸いにも私が大学院時代に習得した多くの技術が研究留学先でも非常に役に立ち、それらを用いて多くの研究成果を発表することができました。

研究者として充実した生活を送ることができた研究留学でしたが、私が眼科医になった理由である網膜硝子体術者としての道が狭まる不安を感じ、基礎研究が一段落ついたところで帰国しました。市立四日市病院での勤務を経て平成24年(2012年)から令和６年(2024年)までの12年間、名古屋大学の教員として臨床、研究、さらには教育に邁進してまいりました。これまでに私が指導した11人の大学院生のうち、幾人かが現在では大学教官となり臨床や研究分野で活躍するまで成長したことに感慨を覚えます。彼らを母校に残すことで、私も心置きなく浜松医科大学での務めに専念することができます。

そしてこれからは本学・本院と眼科学講座の発展に邁進します。これまで本学眼科学講座は斜視弱視分野や遺伝性網膜疾患に対する遺伝学的診断といった分野で非常に高い評価を得てまいりました。今後はこれらの伝統を守りつつも、私がこれまで行ってまいりました網膜硝子体分野での手術や研究を推進し、臨床・研究・教育においての相乗効果を図ります。そして多くの学生や専攻医に魅力的な教育プログラムを提供し、医局(この表現もやや時代遅れな気もしますが)を発展させ、地域医療の安定に貢献します。

私は幸いにも比較的若くして教授の職に就くことができました。現在日本中の眼科教授としては最年少です。医局スタッフは私以外も比較的若いメンバーが多く、向学心と可能性に満ちています。この「若さ」を欠点ではなく最大の利点として活かし、焦らず確実に、この地域全体の眼科医療の発展に貢献してまいります。

今後、末長く、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新任教授のごあいさつ

泌尿器科学講座　教授　稲元 輝生

令和６年(2024年)９月１日付で泌尿器科学講座教授を拝命いたしました、稲元輝生(いなもと てるお)と申します。

私は大阪医科大学(現・大阪医科薬科大学)を平成10年(1998年)に卒業し、ただちに大阪医科大学泌尿器科に入局いたしました。大阪医科大学附属病院、大阪府済生会茨木病院で研修を重ね、平成16年(2004年)４月からは東京大学医科学研究所で基礎研究に取り組みました。そこでは細胞表面に存在する膜貫通型たんぱく質に対する特異抗体の機能解析を行い、引き続いて泌尿器がん治療に応用する目的で特異抗体をヒト化し機能解析するプロジェクトに参加しました。

平成18年(2006年)11月からは、米国テキサス州にあるMDアンダーソンがんセンターに留学し、尿路上皮癌の基礎研究に没頭しました。留学先のPIが泌尿器科医であったこともあり臨床研究にも参加することができたことは僥倖でした。

大学に帰学してからは大規模データを用いた臨床統計の解析に従事するとともに、本学に着任するまでの15年は病棟医長や外来医長として手術指導や安全管理に関わってきました。

私の臨床の専門は低侵襲手術と臓器温存ですが、大阪医科薬科大学の下部消化管外科班(大腸外科チーム)におられた奥田準二先生にかわいがっていただき、腹腔鏡下の骨盤内蔵全摘除術のような大きな手術にも参加しました。泌尿器科手術ではダビンチを用いたロボット支援手術と泌尿器腹腔鏡手術を専門としています。技術認定医とプロクターとして手術指導を行う傍ら、これからは手術を凌駕する低侵襲治療が必要であると考え、QOL改善を目指した低侵襲治療の追求と実践である臓器温存治療に取り組んでいます。特に膀胱がんに対する膀胱温存療法と上部尿路上皮がんに対する臓器温存療法は、立案から実践と宣伝を主導してきました。

今後は少子化が確実視される我が国の現状を鑑みて、性機能温存や男性不妊治療にこれまで以上に取り組み、男性のライフタイム・パートナーとなる診療科としての役割を果たしたいと思います。本学は日本のちょうど真ん中にあり東西へのアクセスが抜群によく、特徴的な治療を行うことで今まで以上に多くの患者さんを呼び込むことが可能であると思います。今後は他の診療科の先生方との協調性を大事にしながらも若い先生方が生き生きと活躍する教室作りに努めたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

親睦会を開いていただきました

新任教授のごあいさつ

救急災害医学講座　教授　渥美 生弘

はじめまして。令和６年（2024年）７月１日付で救急災害医学講座の教授を拝命した渥美生弘(あつみたかひろ)と申します。浜松医大の一員に加えていただきありがとうございます。

私は平成８年（1996年）に弘前大学を卒業しました。ラグビー中心の学生時代を過ごしましたが、この頃から仲間と取り組むことが好きだったのかもしれません。臨床実習では、意識レベルがダイナミックに変化する脳神経外科に興味を持ち、一つの事にこだわるより、いろいろ経験してみたいと考え、地域医療、救急医療の見学に行きました。

大学６年生を迎える春休みのことです。日本医科大学高度救命救急センターの見学実習２日目の朝に、拳銃で撃たれた患者さんが来ました。搬送時は会話ができましたが、その数分後に意識がなくなり、緊急手術になりました。それは、当時の警察庁長官を瀕死の状態から救命した現場でした。病院全体の力を集結して救命したチーム力を目の当たりにした私は救急医を目指すこととしました。

日本医大では、関連病院でサブスペシャリティとして脳神経外科専門医を取得したのち、救命センターに戻りました。救命センター内の４つの診療チームの一つを任され、チームリーダーとして診療をし、脳神経外科の手術が必要なときには専門医として執刀しました。また、ドクターカーでのプレホスピタル診療、海上保安庁と連携した洋上救急、テレビドラマの監修など、ちょっと変わった経験もして充実した時間を過ごしました。

重症患者の診療には慣れてきたものの、ウォークインの救急外来対応も学ぶ必要があると感じ、平成20年(2008年)から神戸市立医療センター中央市民病院に学びの場を移しました。年間４万人が来院するER型の救命センターで、軽症でも見逃してはいけない疾患や緊急性の高い疾患を学び、多くの経験を積むと同時に、救急診療には病院全体のバックアップの必要性を痛感しました。また、アルテプラーゼ(tPA)という治療薬が脳卒中診療に保険適応となり、地域の脳卒中診療体制の構築や、多数傷病者事案への初期対応を学ぶMCLSコースの立ち上げなど、消防と連携しながら実践的な経験を積むことができました。

“救急医療とは地域医療のハブである”という意識を持って、平成27年(2015年)に両親がいる浜松に移りました。聖隷浜松病院に所属し、ERのメンバーとして活動しながら、ICUにも専従するようになりました。病院のリソースを把握し、目の前の患者さんに対して最適なメンバーを集めてチームで診療を行う体制を整えることに携わりました。救急医療は決して簡単ではありませんが、日々全力で診療を続けることで、仲間が増え、重症患者に対応できる体制が整ってきました。

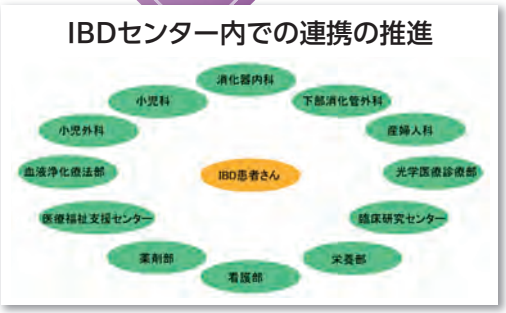
しかし、皆さんもご存じの通り、コロナ禍においては救急患者を受け入れられない状況がありました。個々の医療機関だけでなく、地域全体で力を合わせていく必要性を感じました。私は、学生、初期研修医、そして専門科の若手医師たちとも一緒に診療を行い、救急医療の楽しさややりがいを共有して仲間を増やし、地域医療全体に貢献していきたいと考えています。

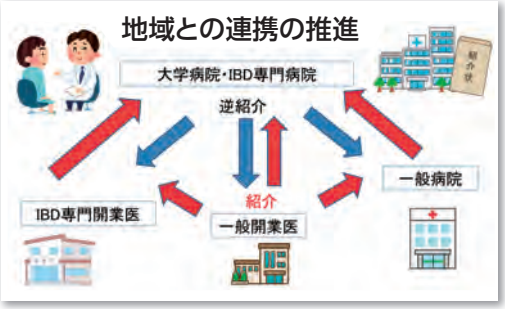
救急医療は病院全体、地域全体の理解なくしては成り立ちません。私は、皆さんと共に楽しく救急医療を提供できるよう全力を尽くしてまいります。さまざまな場面でご協力をお願いすることが多くなるかと思いますが、ご支援とご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

シリーズ 最新医療 Vol.42

「難治症例とIBDセンター」について

炎症性腸疾患(IBD)センター　センター長　教授　杉本　健





炎症性腸疾患(IBD)とは、下痢や血便、腹痛などを主訴とする主に小腸や大腸などの消化管に慢性炎症を引き起こす原因不明の病気で、代表的なものには潰瘍性大腸炎とクローン病があります。患者さんは年々増加を続けており、日本では合わせて30万人を超す患者さんがいると推察されています。これらは完治させる方法がいまだになく、内科治療抵抗例では手術治療が行われる場合も少なくないため、いわゆる国の難病に指定されています。また、就労や学業、女性では妊娠や出産など人生の大きなイベントに直面している若い世代の患者さんに多くみられるのも特徴です。

過剰な免疫が働いていることが病因の一部であることがわかっているので、治療としてはステロイドなどの広く免疫を抑制する薬が主に使われますが、近年ではサイトカインという免疫にかかわる分子にターゲットをしぼった新薬も次々に登場しており、現在開発中の薬剤の治験も本学では多く行われています。また、薬物療法以外にも栄養療法の重要性が示されており、また血球成分除去療法という血液浄化療法部で行われる治療も有効な場合があります。このように治療の進歩により内科的に改善する患者さんも増えていますが、治療が複雑化しており専門施設での治療を必要とする患者さんも多くいます。ただし、すべてを専門施設で引き受けてしまうとパンクしてしまうので、落ち着いている患者さんは市中病院やクリニックに逆紹介するということも必要になってきます。

このようにIBD診療を行う上では大学病院内での複数の診療科や職種による連携が重要であり、また院外の医療機関との地域連携も非常に大事になってきます。そのため院内、院外の連携強化を進め、IBD診療をより円滑に行っていく目的で、本院において令和５年(2023年)１月１日に炎症性腸疾患(IBD)センターが発足しました。IBDに関する総合診療の拠点として、内科医、外科医、小児科医など複数の科の医師を中心に、栄養士、薬剤師、看護師など、多くの職種の方々が一つのチームとなり、患者さんの診療に当たっています。私自身はIBDセンター長として多くの診療部門間での連携を円滑に行うために、定期的な多職種が関わる研究会や『IBDセンター便り』というメール配信を行っています。

IBDは、患者さん自身やご家族の方々にとって、大変な心身の負担を与える疾患であり、患者さん一人ひとりに合わせた適切な治療が求められます。当センターでは、新しい治療法や検査法を導入し、患者さんの症状に合わせた適切な治療を提供することを今後も目指していきたいと思っています。今後も当センターへのご支援をよろしくお願いいたします。

病気
ここが
知りたい

漢方専門外来の紹介

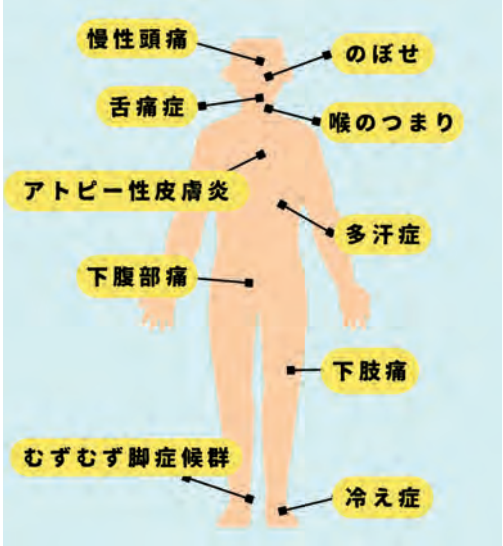
漢方専門外来（麻酔科蘇生科内）　中山　毅（産科婦人科）
木村 哲朗（麻酔科蘇生科）

今回は令和３年（2021年）４月に開設いたしました、漢方専門外来をご紹介させていただきます。m3(医療専門サイト)の令和４年(2022年)のアンケートでは、約75％の医師が漢方薬を用いた診療を行っているとされます。私たちは日本東洋医学会に所属する漢方専門医として、それぞれの診療科で働きつつ漢方診療も行う、いわば“西洋医学と東洋医学の二刀流を目指す――”、そんな熱い思いを麻酔科蘇生科中島先生にくみ取っていただき、漢方専門外来を開設するにいたりました。

漢方外来では“望聞問切（ぼうぶんもんせつ）”と言いまして、患者さんの話や表情、舌の状態を確認して、さらにお腹や脈も診て、証を診断し漢方薬を選択いたします。証というのは、患者さんの体質と考えていただいて構わないと思います。数ある漢方薬のなかから、患者さんにあったベストの処方を選びたい、私たち漢方医が一番大事にしていることです。

現在まで病診連携を通じてのご紹介に限らず、内科や皮膚科、乳腺外科などさまざまな診療科の先生からご紹介をいただいております。愁訴も幅広く、頭の先から足のつま先までの多彩な症状にて、ご紹介いただいております。漢方診療の大きな魅力はなんといっても、診療科を超えた多くの先生方との交流ができることだと自負します。漢方はマイナーであるというイメージを払拭しつつ、多くの先生方や患者さんに漢方診療の素晴らしさを共有できれば幸いです。

※なお女性特有の症状の場合は、産婦人科にて行っております（担当 小泉るい先生）。



病気
ここが
知りたい

胎児診断外来開設のご報告
～ 確かな胎児診断に基づく家族支援の実践

産科婦人科　助教　新谷 光央

医療機器の進歩とともに多くの情報が得られるようになり、胎児の状態と出生後に予想される状態を把握できるようになりました。本院産科婦人科では、令和６年(2024年)５月より胎児異常について専門的に診療する「胎児診断外来」を開設いたしました。高い専門性をもって、胎児に関わる問題をメッセージとして丁寧に聞き取り、その声をご家族と共有するとともに、確かな診断にもとづく周産期管理・家族支援を目指してまいります。

■対象疾患

胎児に関わる構築異常および機能異常のすべてについて精査・診断いたします。先天性心疾患(構築異常・調律異常・機能異常のすべて)も当外来の対象疾患となります。

■胎児診断と家族支援

胎児診断は、単に疾患名を伝えたり、その疾患の一般論を語ることではなく、あくまでも「この児がどうなのか」を語ることだと考えています。例えば同じ診断名の心疾患でも、血管の走行や位置関係、あるいはわずかな径の差から生じる血流量の違いなど、出生後の治療戦略に影響を与える因子が多数存在しえます。そのため、胎児を正しく導くには理論的かつ緻密な評価が不可欠で、それをもとに出生後管理方針をご家族へ分かりやすくお伝えすることが重要です。そのうえで妊娠管理方針、分娩施設、分娩様式、分娩時期などを策定し「いいお産」を提供することが産科としての家族支援の第一歩と考えています。当外来では、診察および説明時間を十分に設け、関連する診療科や部署、医療スタッフと情報を共有しながら「いいお産」が実践できるよう努めてまいります。

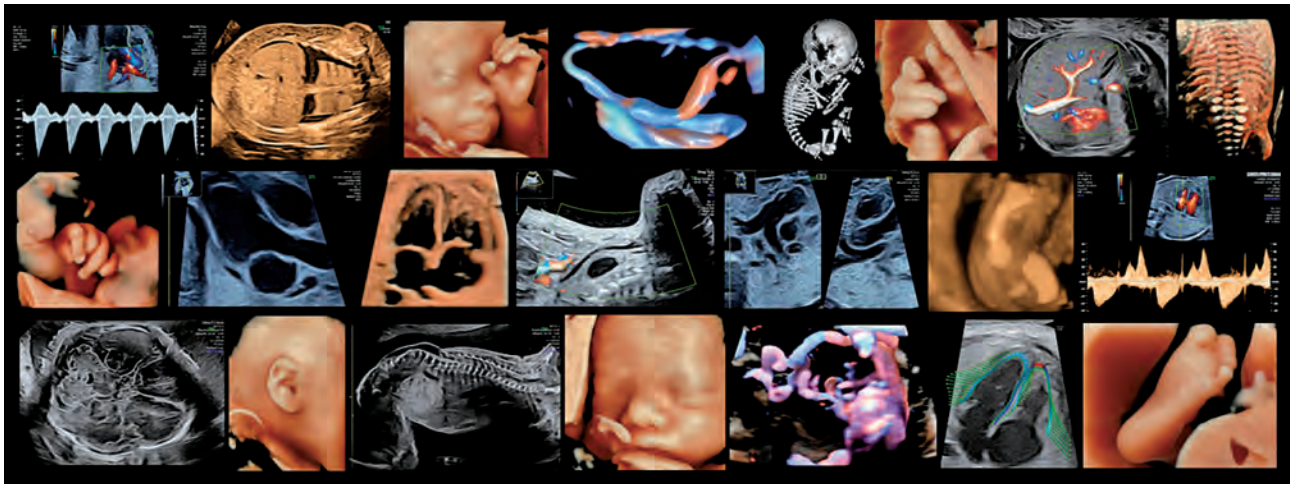
■ホームページ

本院HPにも胎児診断外来について掲載されております。

ホーム＞病院トップページ＞診療科案内＞産科婦人科＞胎児診断外来について

URL: https://www.hama-med.ac.jp/hos/departments/ob-gyn/taiji.html

浜松医大　胎児　検索



めまいに負けない体作りをしよう～自分でできるリハビリの紹介

耳鼻咽喉科･頭頸部外科　教授　三澤　清

秋は一般的には過ごしやすい季節ですが、秋雨や台風などの気圧変動、日照時間が短くなり寒暖差が激しくなるなど、気象や気候が変化していく季節です。このような季節の変わり目は、頭痛やだるさ、めまいなどのいわゆる“気象病”が多い時期でもあります。特にめまい症に対して、最近では、めまいリハビリが有効と言われています。今回はそのめまいリハビリをご紹介します。

“平衡バランスのくずれ”に負けない体作り

平衡感覚は、聴覚と同じ耳で感じています。体を動かすと耳も傾いたり動いたりするので、耳が平衡感覚を感知します。平衡感覚は神経を伝わって“脳”へ送られます。そして脳から神経を伝わって、“目”がぼやけないように眼球が動いたり、転ばないように“足腰”が動いたりといった反射動作が起きます。

耳石置換法の風景

めまいリハビリを行うと、“耳や脳”と“眼や足腰”の崩れた平衡バランスが“代わり、強くなり、慣れる”ことでめまいが起こりにくくなります。また、例えば「激しいめまいの後、ぐるぐるはしなくなったけど、動くとくらくらする、動くものを見るとくらくらする」といった、３カ月以上続く慢性のめまい症状や、加齢など内耳の機能が衰えることによるめまいなどに有効です。また、ふだんから気象病やストレス、自律神経の不調などでめまいを感じがちな方にも、それに負けない体作りに有効です。

無理のない範囲でリハビリをしよう

今回は、自分でできる前庭リハビリを紹介いたします。無理のない範囲で徐々に回数を増やす、スピードを速くする、などしていきましょう。しかし、やりすぎには注意です。また、急性めまいでは早期回復を目的に前庭リハビリを行いますが、メニエル病など繰り返すめまい疾患の発作期では前庭リハビリを行わないことが大事ですので、医師の指示に従ってください。

他にも、めまいリハビリには耳石置換法というものもあります。良性発作性頭位めまい症は、頭の位置が変わると目が回るのですが、内耳の三半規管に耳石が迷入して起こるとされている病気です。どのような頭の位置でどのように目が回るかを赤外線カメラで診察し、頭を動かすことで耳石をもとの場所に戻します。

このように、耳鼻咽喉科では、めまいに対して、めまいリハビリを積極的に取り入れています。それでは、そのエッセンスを次項で紹介します。

「エプリー法」とは　医師の診察のもと、耳石を排出するリハビリです

この方法は、後半規管型の良性発作性頭位めまい症という病気に対して、医師の診察のもと行うリハビリです。
頭の向きを変えていくことによって、めまいの原因となっている三半規管に迷入した耳石が排出されます。

Let's try!

前庭リハビリ

「代わり、強くなり、慣れる」

バランス感覚で足りない部分の代わりを、繰り返しで強くし、めまいが起こりにくくなります。このリハビリは、自宅でも簡単にできます。ぜひチャレンジしてください！

1

腕をまっすぐ伸ばして、親指を立てる。目線は親指。

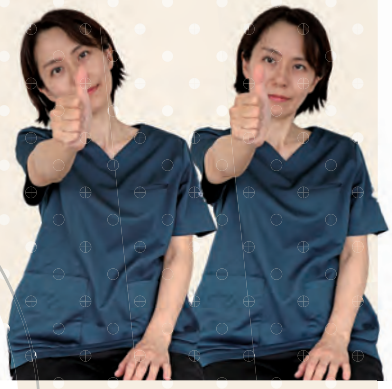
2

親指を見たまま、30秒間くらい、頭を左右に振る。

3

❷と同じように、親指を見ながら、頭を上下に動かす。

4



❸と同じように、親指を見ながら左右斜めも行う。

※不快感が強くなったら休憩しましょう。

ちなみに……

親指の代わりにカードでも可能。小さい角度で、ゆっくりから始め、慣れてきたら、角度30度、1秒間に1回の速さを目標にする。ただし、無理はしないこと。

1 足は肩幅程度に開いてまっすぐに立ち、膝や腰を曲げないように、左右に体を傾けて5回往復。これができたら、今度は足を閉じて同じ動作を。

2 左右の動作と同じように、肩幅程度に足を開いて、体を前後に傾ける。

※転ばないよう、周囲の安全を確認して行ってください。

安心と信頼を纏(まと)って（医療福祉支援センター）

背中に広がる無限の可能性

多様な視点で患者さんの未来を描きます

医療福祉支援センターの職員が一目で分かるように、新ユニフォームを作成しました！
背中には、円(丸)を基調としたそれぞれの職種名が入ったロゴをあしらい“円＝切れ目なく続くこと”から、患者さんを切れ目なく地域や医療機関、施設などに繋げたいといった思いや、患者さんとご家族、医療との調和、みなさんの無限の可能性などを表しています。

医療福祉支援センターは、看護師と社会福祉士、事務職員が協力して、安心して治療が受けられるように支援をする部署です。『大切な家族が病気にかかる』ということは、病気に対する心配もありますが、これからも自宅で過ごすことができるのか、医療費はどのくらいかかるのか、仕事はどうしたらよいのかなど、不安になることが多々あると思います。そういった不安に対応するのが、私たち医療福祉支援センターのメンバーです。縁の下の力持ちとして、地域への繋ぎ役として、皆さんのお話をしっかりうかがい支援を行っています。本院をご利用の際は、背中の丸いロゴを見つけてお気軽にご相談ください。まずはお話をうかがいます。“丸いロゴは、あなたと医療と地域をつなぐ安心の証”です。皆さんが安心して治療が受けられるようにお手伝いいたします。

外来棟1階
医療福祉支援センター
053−435−2772
8：30～17：00（お休み：土日祝、年末年始）

クラウドファンディング

ウイルス性肝炎啓発イベント開催のお礼

肝疾患連携相談室　室長
肝臓内科　准教授　川田 一仁

肝臓内科と肝疾患連携相談室ではウイルス性肝炎啓発イベントの開催を目標にクラウドファンディングを行いました。多くのご支援により目標金額を上回ることができたため、令和６年(2024年)７月６日にウイルス性肝炎啓発イベントを開催することができました。イベントでは、無料肝炎ウイルス検査、腹部超音波検査や肝硬度検査を行い、同時に市民公開講座も開催しました。さらに家康くんや直虎ちゃん、ふじっぴーとともに啓発グッズを配布し、多くの皆さんにウイルス性肝炎について関心を持っていただけました。今後も肝炎ウイルス撲滅のために活動を続けていきたいと思います。

今回のクラウドファンディングにご支援いただいた皆さん、イベントにご参加いただいた皆さんに深く感謝申し上げます。

Handayama Topics
はんだ山 トピックス

2024 8/1(木) サマーイベント～沖縄エイサーと縁日

本学のボランティアサークル四つ葉によるイベントが、外来棟と病棟にて開催されました。

外来棟中庭では、創作太鼓童衆希宝-KIHOU-によるエイサーの演舞が行われ、観客は躍動感あふれる演技と太鼓に合わせて手拍子や掛け声をかけながら、沖縄舞踊を楽しみました。

また４階西病棟(小児科病棟)では縁日が開かれ、子どもたちはスーパーボールすくいや的あてで遊んだり、マジックショーを観覧したりするなど、楽しいひと時を過ごしました。

これらの企画・運営を担当した医学科５年の吉田美波さんは、「入院生活が続く子どもたちに、お祭りの楽しさを知ってもらえてうれしい」と話してくれました。

患者さんとそのご家族、医療関係者が一緒になって、夏の日差しを照り返すような笑顔あふれる１日となりました。

浜松市在住の学生による
沖縄伝統芸能「エイサー」の披露

小児病棟患者さんが、看護師や学生たちと
祭りを楽しむ様子

浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内（医療従事者向け）

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。
各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。(12月の開催はありません)

開催回	開催日時	講　師	申込締切
第42回	11月20日(水) 19時30分～ 20時30分	臨床研究センター　副センター長(兼)准教授 小田切 圭一 先生 「浜松医科大学における、 治験・臨床研究の現状と支援の取り組み」	11月19日(水)
第43回	2025年 1月29日(水) 19時30分～ 20時30分	いたみセンター特集 精神科神経科　講師　和久田 智靖 先生 「慢性疼痛における精神科の役割」	2025年 1月28日(火)
第44回	2025年 2月26日(水) 19時30分～ 20時30分	いたみセンター特集 演題未定	2025年 2月25日(火)

事前申し込み方法： メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。
詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

お問い合わせ： 地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）
電話：053-435-2637　FAX：053-435-2849　（平日8：30～18：00）
E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp

発行／浜松医科大学医学部附属病院広報推進委員会
〒431-3192 浜松市中央区半田山1丁目20番1号　TEL.053(435)2111(代表)　FAX.053(435)2153(医事課)　Hpアドレス／https://www.hama-med.ac.jp

外来診療日一覧

2024.10.1現在

受付時間　午前８時30分～11時　一般外来・専門外来
　　午後０時30分～　２時　専門外来

休 診 日　土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年１月３日

○：午前
◆：予約のみ

診療科名		診療日 初診 月	初診 火	初診 水	初診 木	初診 金	再診 月	再診 火	再診 水	再診 木	再診 金	備考
内科　受付電話　435－2632　※神経・難病センター受付電話　435－2484												
	一般内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	消化器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	腎臓内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午後のみ
	※ 脳神経内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	水曜日：午前のみ
	内分泌・代謝内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
	呼吸器内科	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
	肝臓内科	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
	循環器内科	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火曜日：午後のみ
	血液内科	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	木曜日：午前のみ
	※免疫・リウマチ内科	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
	臨床薬理内科	◆			◆	◆	◆			◆	◆	要問い合わせ
	IBDセンター	◆		◆		◆	◆		◆		◆	
専門外来	家族性消化器腫瘍外来				◆					◆		
専門外来	脳神経病態外来	◆					◆					午後のみ
専門外来	早期認知症外来					◆					◆	午後のみ：第1、2、3、5週
専門外来	感染症専門外来			◆					◆			午後のみ
専門外来	禁煙外来	◆					◆					※2021.7～休診
専門外来	ペースメーカ外来											予約のみ　要問い合わせ
専門外来	ピロリ菌外来	◆										午後のみ
専門外来	合併症外来								◆			
精神科神経科　受付電話　435－2635												
	初診・再診		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	
専門外来	摂食障害専門外来								◆	◆		
小児科　受付電話　435－2638												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	内分泌・遺伝		◆					◆				
専門外来	内分泌		◆					◆				
専門外来	心臓				◆	◆				◆	◆	
専門外来	血液腫瘍				※	※				◆	◆	※初診は随時電話で
専門外来	免疫・アレルギー	◆			◆	◆	◆			◆	◆	
専門外来	神経	◆	◆		◆		◆	◆		◆		
専門外来	腎臓	◆			◆		◆			◆		
専門外来	新生児フォローアップ						◆	◆			◆	
専門外来	乳児検診	◆					◆					
専門外来	長期フォローアップ外来									◆		第4週のみ
専門外来	特殊予防接種										◆	
小児外科　受付電話　435－2638												
	初診・再診		◆		◆		◆	◆		◆		
外科　受付電話　435－2641・2642												
	心臓血管外科	○		○	◆	◆	○		○	◆	◆	
	呼吸器外科			◆					◆		◆	
	乳腺外科	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後)
	一般外科	○		○		○	○		○		○	
	上部消化管外科		◆	◆					◆	◆		
	下部消化管外科	◆					◆			◆		
	肝・胆・膵外科				◆	◆				◆	◆	
	血管外科		◆			◆		◆		◆	◆	金曜日：下肢静脈瘤
	IBDセンター	◆					◆					
	リンパ浮腫センター				◆					◆		
専門外来	肥満減量外来					◆					◆	
専門外来	緩和ケア外来	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	
脳神経外科　受付電話　435－2644												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆	
整形外科　受付電話　435－2647												
	初診・再診	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	
専門外来	教授外来（脊椎）	◆			◆		◆			◆		
専門外来	骨粗鬆症				◆					◆		
専門外来	リウマチ			◆	◆				◆	◆		
専門外来	手・末梢神経			◆					◆			
専門外来	脊椎	◆					◆					
専門外来	腫瘍			◆					◆			
専門外来	股関節					◆					◆	
専門外来	肩関節					◆					◆	
専門外来	膝関節・スポーツ					◆					◆	
専門外来	小児整形	◆					◆					
専門外来	ヘルニア							◆				

診療科名		診療日 初診 月	初診 火	初診 水	初診 木	初診 金	再診 月	再診 火	再診 水	再診 木	再診 金	備考
皮膚科　受付電話　435－2650												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	アトピー外来		◆	◆				◆	◆			
	脱毛症外来	◆		◆			◆		◆			
	乾癬外来		◆					◆				
	皮膚リンフォーマ外来				◆					◆		
泌尿器科　受付電話　435－2653												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆		
専門外来	腎移植外来				◆					◆		医師交代制
	排尿障害外来		◆	◆				◆	◆			
	不妊症外来	◆				◆	◆				◆	月曜日：第1、3、4、5週のみ
	腫瘍外来		◆	◆	◆			◆	◆	◆		
眼科　受付電話　435－2656												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	火・金曜日：午前のみ
専門外来	網膜変性外来		◆					◆				
	斜視・弱視外来								◆			
	ロービジョン										◆	
	角膜外来									◆		第2週のみ（月により変更あり）
耳鼻咽喉科　受付電話　435－2659												
	初診・再診	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	
専門外来	腫瘍外来	◆			◆		◆					
	耳外来				◆					◆		
	耳鳴外来		◆					◆				
	難聴外来・人工内耳外来		◆					◆				
	睡眠時無呼吸・いびき外来	◆				◆	◆				◆	
	顔面神経外来		◆		◆			◆		◆		
	鼻副鼻腔・アレルギー外来	◆			◆		◆			◆		
	めまい外来			◆					◆			
産科婦人科　受付電話　435－2662　※女性医師ご希望の方はお申し出ください												
	産科　初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科　初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	婦人科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	産科外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	NIPT外来							◆				
	腹腔鏡外来				◆					◆		
	漢方外来				◆					◆		第1、2、4週のみ
	胎児診断外来		◆		◆			◆		◆		
	母親学級											予約制
	助産師外来											要問い合わせ
	乳腺予防ケア外来											（午後に産科婦人科へ）
ＡＲＴ室　受付電話　435－2664												
	不妊外来						◆	◆		◆	◆	
放射線科　受付電話　435－2665												
放射線治療科	放射線治療外来	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
放射線診断科	IVR外来		◆					◆				
麻酔科蘇生科　受付電話　435－2668												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	いたみセンター	◆					◆					
リハビリテーション科　受付電話　435－2747												
	初診・再診	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	要問い合わせ　午前のみ
専門外来	義肢・装具外来			◆					◆			午後のみ
	嚥下外来	◆		◆			◆		◆			
	痙縮外来		◆		◆			◆		◆		
	高次脳外来	◆			◆		◆			◆		
形成外科　受付電話　435－2496												
	初診・再診	○	○	○	○		○	○	○	○		木曜日：リンパ浮腫
歯科口腔外科　受付電話　435－2673												
	初診・再診	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	
専門外来	唇顎口蓋裂外来											専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください
	顎補綴											
	矯正歯科											

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（０５３）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院